

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-11	高等学校	地理歴史科	日本史B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
81 山川	日 B314	高校日本史 改訂版		

1. 編修の基本方針

- (1) 平成 21 年 3 月改訂の高等学校学習指導要領「日本史 B」の目標、内容、内容の取り扱いの趣旨に従ったが、高等学校における日本史学習上の問題点や教育現場における指導例などを考慮して、一部独自の構成を加えて作成した。
- (2) 高等学校学習指導要領「日本史 B」の内容である「原始・古代の日本と東アジア」「中世の日本と東アジア」「近世の日本と世界」「近代日本の形成と世界」「両世界大戦期の日本と世界」「現代の日本と世界」の趣旨に従って、部・章立てをおこなった。
- (3) 学習指導要領の目標に記された「地理的条件や世界の歴史と関連付ける」「日本の伝統と文化の特色についての認識を深めさせる」という観点を積極的に盛り込み、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養うことができるよう留意した。
- (4) 標準単位数 4 単位で履修されることを前提として編修し、日本の歴史の流れを把握する点に主眼を置き、できる限り平易に叙述した。その際、政治・経済・社会・文化などの諸事象は、相互の関連を重視した叙述を心がけ、単なる事項の羅列にならないよう十分に注意した。
- (5) 諸資料を多角的に検討し、その結果を自らの言葉で表現させることを意図して、「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」ではそれぞれ特定の主題を設定し、歴史考察の手段・方法を具体的な資料に基づきながら例示した。
- (6) 高等学校における日本史教育の重要性を考慮し、とくに公正な立場から正確に叙述するとともに、必要に応じて考古学や民俗学などを含めた歴史学の新しい研究成果を慎重に吟味しながら盛り込んだ。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
空からみる歴史遺産（口絵）	* 日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむと同時に、理解や親しみが深まるよう、今日に伝わる文化財を積極的に取り上げた（第 5 号）。 * 空中撮影写真を掲げ、環境保全の重要性に気づかせる構成・叙述につとめた（第 4 号）。	①～②

<p>歴史と資料 身近な史跡・資料から考える</p>	<p>*「歴史と資料」では、主体的な学習を促すため、具体的な資料に基づいて歴史を総合的に考察するための手段や方法を、生徒の発達段階をふまえて例示した(第2号)。</p>	<p>4～8ページ</p>
<p>第Ⅰ部 原始・古代</p> <p>第1章 古代社会の形成</p> <p>1. 日本文化のはじまり</p> <p>2. 農耕の開始</p> <p>3. ヤマト政権と古墳</p> <p>第2章 律令国家の形成</p> <p>1. 律令国家の成立</p> <p>2. 律令国家の繁栄</p> <p>3. 律令国家の変質</p> <p>第3章 貴族政治の展開</p> <p>1. 摂関政治</p> <p>2. 国風文化</p> <p>3. 荘園の発達と武士の台頭</p>	<p>*部の冒頭では、原始・古代の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景と関連付けて叙述するとともに、各時代に文化史の写真特集ページを設け、日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむことに資する構成につとめた。その際、国内の動向のみならず、周辺の国々をはじめとする各地域の歴史や、日本と諸外国との関係にも触れながら叙述した(第5号)。</p> <p>*「古代の南九州―隼人―」「奥州藤原氏の繁栄」などの地域を学ぶためのコラムを設け、人間と自然環境の関係から歴史を考察することができるよう工夫した(第4号)。</p>	<p>9ページ</p> <p>10～72ページ</p> <p>31～34, 36～38, 46～50, 53～56, 62～68ページ</p> <p>57, 72ページ</p>
<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第4章 武家社会の形成</p> <p>1. 院政と平氏の台頭</p> <p>2. 鎌倉幕府の成立と発展</p> <p>3. 蒙古襲来と幕府の衰退</p> <p>4. 鎌倉文化</p> <p>第5章 武家社会の成長</p> <p>1. 室町幕府の成立</p> <p>2. 下剋上の社会</p> <p>3. 室町文化</p> <p>4. 戦国の動乱</p>	<p>*部の冒頭では、中世の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景と関連付けて叙述するとともに、各時代に文化史の写真特集ページを設け、日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむことに資する構成につとめた。その際、国内の動向のみならず、周辺の国々をは</p>	<p>73ページ</p> <p>74～127ページ</p> <p>79～80, 93～99, 116～123ページ</p>

	<p>はじめとする各地域の歴史や、日本と諸外国との関係にも触れながら叙述した（第5号）。</p> <p>*「琉球王国」など、地域を学ぶためのコラムを設け、人間と自然環境の関係から歴史を考察することができるよう工夫した（第4号）。</p>	130ページ
歴史の解釈 土一揆を考える	*「歴史の解釈」では、主体的な学習を促すため、具体的な資料に基づいて歴史を総合的に考察するための手段や方法を、生徒の発達段階をふまえて例示した（第2号）。	128～129ページ
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第6章 幕藩体制の成立</p> <p>1. 織豊政権</p> <p>2. 江戸幕府の成立</p> <p>3. 江戸初期の外交と文化</p> <p>第7章 幕藩体制の展開</p> <p>1. 幕政の安定</p> <p>2. 経済の発展</p> <p>3. 元禄文化</p>	<p>*部の冒頭では、近世の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した（第1号）。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した（第3号）。</p> <p>*文化史は、時代背景と関連付けて叙述するとともに、各時代に文化史の写真特集ページを設け、日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむことに資する構成につとめた。その際、国内の動向のみならず、周辺の国々をはじめとする各地域の歴史や、日本と諸外国との関係にも触れながら叙述した（第5号）。</p> <p>*「アイヌと和人」など、地域を学ぶためのコラムを設け、人間と自然環境の関係から歴史を考察することができるよう工夫した（第4号）。</p>	<p>131ページ</p> <p>132～176ページ</p> <p>139～143, 156～158ページ</p> <p>159ページ</p>
歴史の説明 生類憐みの令は、なぜ出されたのだろう	*「歴史の説明」では、主体的な学習を促すため、具体的な資料に基づいて歴史を総合的に考察するための手段や方法を、生徒の発達段階をふまえて例示した（第2号）。	177～178ページ
<p>第8章 幕藩体制の動揺</p> <p>1. 幕政の改革</p> <p>2. 幕府の衰退</p> <p>3. 化政文化</p>	*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙	179～198ページ

	<p>述した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景と関連付けて叙述するとともに、新たに「宝暦・天明期の文化」を設けるなど時期区分を改善した。また、文化史の写真特集ページを設け、日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむことに資する構成につとめた。その際、国内の動向のみならず、周辺の国々をはじめとする各地域の歴史や、日本と諸外国との関係にも触れながら叙述した(第5号)。</p>	183～187, 195～198ページ
<p>第IV部 近代・現代</p> <p>第9章 近代国家の成立</p> <p>1. 開国と幕府の滅亡</p> <p>2. 明治維新</p> <p>3. 立憲国家の成立</p> <p>4. 大陸政策の展開</p> <p>5. 近代産業の発展</p> <p>6. 近代の文化</p> <p>第10章 二つの世界大戦とアジア</p> <p>1. 第一次世界大戦と日本</p> <p>2. 政党政治と大衆文化</p> <p>3. 恐慌の時代</p> <p>4. 軍部の台頭</p> <p>5. 第二次世界大戦</p> <p>第11章 現代の世界と日本</p> <p>1. 占領下の改革と主権の回復</p> <p>2. 55年体制と高度経済成長</p> <p>3. 現代の情勢</p>	<p>*部の冒頭では、近代・現代の展開を世界の歴史と関連付けて概観した年表を掲載した(第1号)。</p> <p>*全体として、公正な立場から客観的に叙述した。日本の歴史が、さまざまな地域や人びととの交流の中で、その影響を受けつつ展開してきたことを、多方面からバランスよく叙述した(第3号)。</p> <p>*文化史は、時代背景と関連付けて叙述するとともに、各時代に文化史の写真特集ページを設け、日本の伝統と文化を尊重する態度をはぐくむことに資する構成につとめた。その際、国内の動向のみならず、周辺の国々をはじめとする各地域の歴史や、日本と諸外国との関係にも触れながら叙述した(第5号)。</p> <p>*足尾鉍毒事件や高度経済成長期の公害問題、地球規模の環境問題について触れるなど、生命の尊さや環境の保全の重要性にも配慮した記述を心がけた(第4号)。</p>	199ページ 200～330ページ 246～254, 271～274, 311～312, 321～322ページ
<p>歴史の論述 歴史の転換期をまとめる</p>	<p>*「歴史の論述」では、主体的な学習を促すため、具体的な資料に基づいて歴史を総合的に考察するための手段や方法を、生徒の発達段階をふまえて例示した(第2号)。</p>	331～332ページ

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 全体的に平易な叙述を心がけ、また、学習上の便宜を考慮して、ふりがなや参照ページなども適宜挿入した。

- (2) 図版類は、本文の叙述を具体的に理解させる上で効果のあるものを、できるだけ豊富に収載し、図版の見方・観点などを簡潔に示した。
- (3) 伝統文化への理解や親しみが深まるよう、各時代の文化史を写真特集ページとして設けたが、その選定にあたっては地域や時代のバランスにも注意を払った。
- (4) 教育現場の教科書に関する要望・意見などを十分に検討し、可能な限りそれらを叙述に生かすようつとめた。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-11	高等学校	地理歴史科	日本史B	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
81 山川	日B314	高校日本史 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- (1)日本の歴史の大きな流れを把握できるよう、細部にとらわれず平易な叙述を心がけた。その際、内容の全体にわたって、国際環境や地理的条件などと関連づけて叙述するとともに、地図や年表などの諸資料も適宜掲載し、本文の理解が深められるよう工夫した。また、図版の作成にあたっては、見やすさ・わかりやすさに配慮した。
- (2)日本文化の特色や形成過程が総合的に理解できるよう、文化史は時代背景と関連づけた叙述を心がけるとともに、写真特集ページを設けた。また、生活文化に関連する内容も多く取り上げ、文化の時代区分についても改善した。
- (3)「歴史と資料」「歴史の解釈」「歴史の説明」「歴史の論述」において、歴史の考察が諸資料に基づいてなされるよう具体的に例示した。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第I部 原始・古代 歴史と資料 身近な史跡・資料から考える 第1章 古代社会の形成 1 日本文化のはじまり 2 農耕の開始 3 ヤマト政権と古墳 第2章 律令国家の形成 1 律令国家の成立 2 律令国家の繁栄 3 律令国家の変質 第3章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士の台頭	(1) 原始・古代の日本と東アジア ア 歴史と資料 イ 日本文化の黎明と古代国家の形成 ウ 古代国家の推移と社会の変化	4～72 ページ	1 8 11 9

<p>第Ⅱ部 中世</p> <p>第4章 武家社会の形成</p> <p>1 院政と平氏の台頭</p> <p>2 鎌倉幕府の成立と発展</p> <p>3 蒙古襲来と幕府の衰退</p> <p>4 鎌倉文化</p> <p>第5章 武家社会の成長</p> <p>1 室町幕府の成立</p> <p>2 下剋上の社会</p> <p>3 室町文化</p> <p>4 戦国の動乱</p> <p>歴史の解釈 土一揆を考える</p>	<p>(2) 中世の日本と東アジア</p> <p>ア 歴史の解釈</p> <p>イ 中世国家の形成</p> <p>ウ 中世社会の展開</p>	<p>73～130 ページ</p>	<p>12</p> <p>12</p> <p>1</p>
<p>第Ⅲ部 近世</p> <p>第6章 幕藩体制の成立</p> <p>1 織豊政権</p> <p>2 江戸幕府の成立</p> <p>3 江戸初期の外交と文化</p> <p>第7章 幕藩体制の展開</p> <p>1 幕政の安定</p> <p>2 経済の発展</p> <p>3 元禄文化</p> <p>歴史の説明 生類憐みの令は、なぜ出されたのだろう</p> <p>第8章 幕藩体制の動揺</p> <p>1 幕政の改革</p> <p>2 江戸幕府の衰退</p> <p>3 化政文化</p>	<p>(3) 近世の日本と世界</p> <p>ア 歴史の説明</p> <p>イ 近世国家の形成</p> <p>ウ 産業経済の発展と幕藩体制の変容</p>	<p>131～198 ページ</p>	<p>13</p> <p>7</p> <p>1</p> <p>10</p>
<p>第Ⅳ部 近代・現代</p> <p>第9章 近代国家の成立</p> <p>1 開国と幕府の滅亡</p> <p>2 明治維新</p> <p>3 立憲国家の成立</p> <p>4 大陸政策の展開</p> <p>5 近代産業の発展</p> <p>6 近代の文化</p>	<p>(4) 近代日本の形成と世界</p> <p>ア 明治維新と立憲体制の成立</p> <p>イ 国際関係の推移と立憲国家の展開</p> <p>ウ 近代産業の発展と近代文化</p>	<p>199～254 ページ</p>	<p>22</p>
<p>第10章 二つの世界大戦とアジア</p> <p>1 第一次世界大戦と日本</p> <p>2 政党政治と大衆文化</p> <p>3 恐慌の時代</p> <p>4 軍部の台頭</p> <p>5 第二次世界大戦</p>	<p>(5) 両世界大戦期の日本と世界</p> <p>ア 政党政治の発展と大衆社会の形成</p> <p>イ 第一次世界大戦と日本の経済・社会</p> <p>ウ 第二次世界大戦と日本</p>	<p>255～298 ページ</p>	<p>18</p>

<p>第11章 現代の世界と日本</p> <p>1 占領下の改革と主権の回復</p> <p>2 55年体制と高度経済成長</p> <p>3 現代の情勢</p> <p>歴史の論述 歴史の転換期をまとめる</p>	<p>(6) 現代の日本と世界</p> <p>ア 現代日本の政治と国際社会</p> <p>イ 経済の発展と国民生活の変化</p> <p>ウ 歴史の論述</p>	<p>299～333 ページ</p>	<p>14</p> <p>1</p>
<p>計</p>			<p>140</p>